

第173回 原医研セミナーのご案内

下記のとおりセミナーを開催いたします。多数ご参集ください。

記

日 時： 平成27年11月4日（水）午後6時～
場 所： 霞総合研究棟 7階 701セミナー室

演 題：慢性骨髄性白血病の根治の可能性
～DADI, Lancet Haematologyへの道

講 師：佐賀大学医学部内科学講座血液・呼吸器・腫瘍内科分野
教授 木村 晋也 先生

慢性骨髄性白血病(chronic myeloid leukemia, CML)の治療パラダイムに革命的变化をもたらした経口チロシンキナーゼ阻害薬 (TKI)「イマチニブ」が臨床に導入されてから、ほぼ15年が経過した。かつては同種造血幹細胞移植を実施しない限り、長期生存を得ることが困難であった本疾患の10年生存率はすでに90%を超えるようになっており、イマチニブよりさらに有効性の高い第2世代TKIであるニロチニブ、ダサチニブ、ボスチニブの3種類が日常診療において使用可能となっている現在、さらなる治療成績の向上のみならず本疾患の「治癒」までが視野に入れられるようになってきた。

このような観点から、現在最も注目されている臨床研究が、長期間良好な治療効果が得られている症例に対してある時点からTKIの内服を中止する「STOP試験」である。2010年フランスのグループから、イマチニブ服用患者において完全分子生物学的寛解 (CMR) が2年以上持続している場合には、イマチニブを中止しても、約40%の症例ではCMRを維持可能であることが報告された (STIM試験)。この報告を皮切りに、世界各所でTKIを中止する臨床試験が行われるようになり、わが国においても、Stop Nilotinib trial (NiloSt試験)や演者がデザインしたDasatinib Discontinue trial (DADI試験)が実施されている。DADIトライアルはイマチニブ耐性・不耐用のCML慢性期症例を対象とし、ダサチニブを1年間内服した後に中止する試験であるが、わが国では異例といえるほど短期間に症例の登録が終了し、先日その結果の論文化も終了した (Imagawa J, et al. Lancet Haematology, in press)。本講演では、DADIトライアルの立案・運営と論文投稿から採択に至る過程を振り返り、わが国において新しい臨床エビデンスを創出し、世界に発信するためにアカデミアが果たすべき役割とは何かを考察する。また、TKIの長期中止が可能である症例において、CML幹細胞がどのようなメカニズムで抑制されているかについても仮説的に考察する。

連絡先：広島大学原爆放射線医科学研究所
血液・腫瘍内科 (内線 5861)

広島大学霞地区運営支援部
総務グループ (内線 6279)